

専門部会報告シート

部会名	就労支援部会		報告回	令和元年度第2回全体会
委員 氏名		氏名	選出母体及び役職等	
	1	◎高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長	
	2	○桑田 利重	地域生活支援センターみ～な センター長	
	3	玉上 博康	府中市福祉作業所等連絡協議会 ワークショップさかえ 施設長	
	4	田村 智久	府中市パーキンソン病友の会 会長	
	5	松田 豊	東京都立府中けやきの森学園 教諭	
	6	塚本 美樹	府中公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官	
	※部会長は◎、副部会長は○			
現状	「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」の改正により、平成30年4月から障害者の法定雇用率が引き上げられたため、雇用の拡大が期待される中、障害者本人だけでなく雇用する企業側にも悩みがあるということが、昨年度開催された「障害者雇用相談会」において明らかとなっている。そこで、障害者雇用を促進するため、障害者本人及び企業に対して雇用に繋げるための支援が必要である。			
検討 テーマ (概要)	市内の就労支援について課題を整理し、ハローワークや庁内実習実績、関係機関からの意見等を得ながら議論を進め、就労を長く継続するためにより良い方法を、課題や背景を基に意見を集約する。			
取組 経過	<p>【令和元年度の取組】</p> <p>「障害のある方が安心して働き続けられる地域（社会）を構築する。」をメインテーマとして雇用する企業に対する支援方法や雇用を目指すための周知策を検討した。今後、障害者本人に対する支援について検討していく。</p> <p>「生活・働く」を支える 安心して雇う 雇うを支える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">就労を支える資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・就労支援センター・ハローワーク ・ 就労支援事業所（移行・定着・A型・B型） ・ その他 </div>			

検討 結果	<p>1 障害のある方が安心して働き続けられる地域の構築について</p> <p>(1) 障害者雇用の促進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向けの簡潔な分かりやすいリーフレットを作成する。 ・雇用相談会を行う。 ・職場体験などで障害者雇用の実態を知ってもらう。 <p>(2) 雇用後の定着支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の切り出しの支援をする。 ・本人の障害特性がわかるようなプロフィールシートを作成する。ちゅうファイルなどを活用する。 <p>2 府中市の障害者が府中市で働くためにできることについて</p> <p>(1) 中小企業の雇用促進を行う。</p> <p>(2) 就労を支援する資源の役割の明確化を行い、役割が果たせていない部分を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市（み～な）として会社訪問や面談を充分に行うことができていない。 ・企業へのアプローチができていない。
----------	--

会議開 催状況 と内容		日程	内容
	第1回	令和元年 5月17日	<p><今年度の活動について> 出席委員4名</p> <p>今年度は地域で自分らしい生活を選べるための支援として広くまとめていくこととなった。雇用者と本人への支援を両面からとらえ、障害のある方が安心して働き続けるために何ができるのか考えていく。</p> <p>第2回会議で雇用者への啓発について、第3回会議では雇用後の定着のための雇用者への支援について、第4回会議以降は本人への支援について議論をすることとなった。</p>
	第2回	令和元年 6月13日	<p><障害者雇用の促進について>出席委員4名</p> <p>1、雇用側への啓発</p> <p>*企業向けのリーフレットが多数あるが雇用者の理解・啓発が足りない現状</p> <p>⇒A4用紙1枚程度のボリュームのリーフレットを作</p>

		<p>成できるといい。</p> <p>*障害者を雇用する時の相談先として昨年度から企業向けに雇用相談会を開催している。</p> <p>「仕事の切り出し手伝います」とアピールすると良い。</p> <p>*雇用してもらうのが一番の啓発になる。</p> <p>2、障害者雇用の実態を知ってもらう。</p> <p>*障害者雇用は支援者がつくので安心材料となる。</p> <p>*就労の様子を具体的に知ってもらう。⇒職場体験など</p> <p>*障害者雇用の実態を知ってもらうための機会を創出する必要がある。</p> <p>*雇用者同士の交流会。</p>
第3回	令和元年 7月18日	<p><雇用後の定着支援について>出席委員6名</p> <p>1、雇用の実態</p> <p>*雇用側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用しても仕事の切り出し方法がわからない。 ・仕事の切り出しをやる時間的ゆとり、人員が足りない。 ・管理職は本人を理解していても、現場職員が理解できていない。 ・現場でフォローする人員が足りない。 <p>*雇用される側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く働くからこそその悩みに適応できず、離職につながる。 ・特別支援学校、就労移行支援等の卒業生は、フォロー期間が過ぎて当時の本人を知る人がいないと、相談があっても決定打な役割になるのは難しい。 <p>2、方策</p> <p>*雇用者に対して障害者支援制度の説明を行う。</p> <p>*実習受け入れ先の開拓を行い、職場理解の向上を図る。</p> <p>*本人を理解するための媒体を作成する。(配慮に関する記載のあるもの)</p> <p>3、雇用側、雇用される側へのPR活動、理解啓発</p> <p>*PRパンフレットを作成し、職員の目に付きやすいところに掲示してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期ごとに雇用される側のつまずきやすいポイントを例示する。

			<ul style="list-style-type: none"> それぞれの時期で関わることのできる支援機関をわかるようにすることで、対応の見通しをもたせる。
第4回	令和元年 8月21日	<p><中間報告に向けて>出席委員5名</p> <p>1、今までの部会の振り返り</p> <p>*今期テーマ：障害のある方が安心して働き続けられる地域（社会）を構築する。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A((本人)) -- "安心して働く" --> B((企業)) B -- "安心して雇う" --> A </pre> </div> <p>*これまでの話し合いの経過</p> <ol style="list-style-type: none"> ①就労支援センターの充実（H29.30年度答申） ②企業の理解・啓発（Ex 商工まつり） ③地域（社会）の理解・啓発 ④雇用中の本人の特性理解のための媒体（プロフィールシート）や地域の中に専門職を配置 <p>2、答申に向けて目指すこと</p> <p>*府中市として力を入れていくところはどこか。</p> <p>*目指す姿「府中市の障害者が府中市で働く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大企業は特例子会社や就労Aを設置する等で法定基準は満たしている場合が多い ・中小企業（法定基準に満たない企業や、基準以上の障害者を雇用していない企業）は人手不足の場合も多いが、障害者雇用を積極的に行っている企業が少ないので、中小企業の雇用促進を行う。 <p>*各機関の役割の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国：雇用率の指針、助成制度をつくっている。 ・ハローワーク（現場）：制度の説明、求人票、実習面談会、面接会 ・ハローワークと市：連携して雇用相談会 ・市（み～な）：雇用先の開拓、働きたい人・雇いたい人・事業所へ制度や役割を説明・支援 ・移行・定着支援事業所：障害者を雇用につなげる。定着の支援（障害者本人に対して） ・本人を支える：病院（症状を知る）など <p>⇒役割があってもできていない部分について、確認をする。</p>	